

.....

館園名 : 茨城県近代美術館つくば分館 (茨城県つくば美術館)

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1990年06月09日

所在地

- ・ 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-8

公式サイト

- ・ <http://www.edu.pref.ibaraki.jp/tsukuba/>

設立主体

- ・ 住宅都市整備公団

運営主体

- ・ 茨城県

設立目的

- ・ つくば研究学園都市の文化施設として、美術館機能と図書館機能を併せ持ち、相互の施設機能の関連性を高める複合施設(つくば文化会館アルス)として建設。

展示概要

- ・ 作品の収集は本館が行うため、収蔵品はない。
- ・ 近現代作品を中心に、企画展および所蔵品展(県立近代美術館蔵)として開催。
- ・ 貸ギャラリーとして展示室を貸与している。

活動概要

- ・ 講演・講座、ワークショップ、コンピューターグラフィックスなど。

延床面積

- ・ 6,177.35㎡

全職員数

- ・ 8名

年間運営費

- ・

総資料点数

- ・ 所蔵品なし。

その他

- ・

2. ボランティア活動 名称：つくば美術館ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 1990年の開館当初より、地域における生涯学習活動を展開することを目的として発足。
- ・ 茨城県近代美術館で実施された活動内容をもとに、つくば美術館の実態に応じて活動を行っている。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 37名（2004年）
- ・ 男性： 名、女性：37名（2004年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性約55歳（2004年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局： 担当人数：常勤1名・その他（非常勤）1名

活動の種類

- ・ ①資料整理、②発送作業、③講座の運営。

活動その他

- ・ 定期総会を行う。

関連する出版物

・

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

・

活動個別シート ①資料整理

◇活動開始年

- ・ 1990 年

◇活動人数

- ・ 20 名 (2004 年)

◇活動内容

- ・ 美術館関係資料の整理補助。

◇活動日

- ・ 毎日 (月曜日以外)。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ ボランティア作業スペースあり。

◇運営 (シフト 等)

- ・ 参加できる日を決めて、曜日により様々な整理を行っている。
- ・ 毎日 1～2 名活動。

◇交流 (情報、組織 等)

- ・

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 3～4 月ころ、募集。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ ミーティングを実施。

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・

◇評価

- ・ 毎日 1～2 名ずつ必ず体感して、丁寧に作業を行って頂いている。

◇課題と展望

- ・ 新聞記事の切り抜きのスクラップを作家別にファイリングし、将来は必要な時に公開できる資料としたい。

◇その他

- ・

活動個別シート ②発送作業

◇活動開始年

- ・ 1990 年

◇活動人数

- ・ 37 名 (2004 年)

◇活動内容

- ・ ポスター・チラシ発送準備補助。

◇活動日

- ・ 年 3 回の企画展に合わせて、1 ヶ月前頃 3 日間行う。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ ボランティア作業スペースあり。

◇運営 (シフト 等)

- ・ 必ず 3 日間のうち、1 日は参加してもらっている。

◇交流 (情報、組織 等)

- ・

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ HP、電話、メールなどで募集している。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・

◇評価

- ・ 全員必ず出席して頂いている。
- ・ 毎日和やかな雰囲気の中で作業が進めることができている。

◇課題と展望

- ・ 作業の効率を上げて、なるべくボランティアに負担がかからないようにしたい。

◇その他

- ・

活動個別シート ③講座の運営

◇活動開始年

- ・ 1990年

◇活動人数

- ・ 12名(2004年)

◇活動内容

- ・ 美術講座等(絵画教室・クロッキー教室)運営補助。

◇活動日

- ・ 第1・第3火曜日。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 講座室にて活動。

◇運営(シフト 等)

・

◇交流(情報、組織 等)

・

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 3~4月頃に募集。

◇研修(種類、内容、講師 等)

・

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

・

◇評価

- ・ 毎回、絵のモチーフや、人物モデルの手配、受付など、熱心に活動している。

◇課題と展望

- ・ 絵画教室とクロッキー教室を運営しているが、一般の参加者も増え、定着してきている。
- ・ ただ、受付などの係を当番制にしているため、参加しやすい人とそうでない人で、負担が異なりが生じている。

◇その他

・

.....

館園名 : 上高津貝塚ふるさと歴史の広場

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1995年10月16日

所在地

- ・ 〒300-0811 茨城県土浦市上高津町1843

公式サイト

- ・ <http://www.city.tsuchiura.ibaraki.jp/section/kyouiku/6009/index.htm>

設立主体

- ・ 土浦市

運営主体

- ・ 土浦市

設立目的

- ・ 国指定史跡上高津貝塚の整備を契機として、上高津貝塚および市内考古資料の展示・活用・研究施設として設置。

展示概要

- ・ 常設展示：上高津貝塚を中心とした縄文時代の人々の生活・文化について。
- ・ その他考古資料を、特別展・企画展で公開。
- ・ 屋外展示：上高津貝塚復元整備（竪穴住居、貝層断面展示など）。

活動概要

- ・ 地域の特色を紹介する特別展、企画展を開催。
- ・ 講演会、体験学習等を実施。
- ・ 図録・年報等を発行。
- ・ 市内埋蔵文化財発掘調査を実施。

延床面積

- ・ 1,764 m²（考古資料館）

全職員数

- ・ 8名

年間運営費

- ・ 約100,000千円（職員賃金含む）

総資料点数

- ・ コンテナで約5,000箱

その他

- ・

2. ボランティア活動 名称：①土浦市文化財愛護の会
②上高津貝塚土器づくりの会
③古代織研究会

活動目的・経緯

・

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 正会員 471 名（2004 年）
- ・ 男性：313 名、女性：158 名（2004 年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳（ 年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：教育委員会文化課 担当人数：常勤 名・その他（非常勤）1 名
（※②、③については、特定の担当者はいない。）

活動の種類

- ・ ①館行事への参加協力（土浦市文化財愛護の会）
- ・ ②講座への協力（上高津貝塚土器づくりの会）
- ・ ③講座への協力（古代織研究会）。

活動その他

・

関連する出版物

- ・ 『沼尻墨僊』、『土浦のむかし話』、『土浦の方言』、『続 土浦の方言』、『土浦の文化財写真絵はがき』など。

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

・

活動個別シート ①館行事への参加協力（土浦市文化財愛護の会）

◇活動開始年

- ・ 1980年、土浦市教育委員会文化課の指導のもと、市民有志が土浦市文化財愛護会として発足させる。
- ・ 土浦市の文化財の研究、保護、活用、および会員相互の親睦を目的とする。

◇活動人数

- ・ 426名（正会員）（2004年） 67名（賛助会員）

◇活動内容

- ・ 土浦市の文化財の研究・保護およびその活用。

◇活動日

- ・ 事業に合わせて活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 市からの補助金120,000円を含めて、約2,000,000円（会費と賛助会費、出版物販売代金その他）
- ・ 考古資料館事務室の一画に事務机を置き、事務を行う。

◇運営（シフト 等）

- ・ 常任理事・理事が会議により企画・運営に当たる。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 幹事会を毎月実施。
- ・ 住所録等を活用し、情報伝達を行う。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 入会希望者を随時受け入れている。
- ・ 資格：高校生以上。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 講演会・地区リーダー研修会（年1回）。
- ・ 文化財視察・研修（1泊2日）。
- ・ 講師は、会員、もしくは外部から招く。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 茶菓子程度の費用を会から負担。

◇評価

- ・ 5年ごとに、周年行事を行う。その際に、会に貢献した役員・会員を表彰する。

◇課題と展望

- ・ 会員が高齢化している。新会員の加入促進が課題。

◇その他

- ・ 市内文化財の清掃、パトロール・防火デー事業への協力、こども郷土研究への協力を行っている。

活動個別シート ②講座への協力（上高津貝塚土器づくりの会）

◇活動開始年

- ・ 講座「縄文土器をつくろう」卒業生を中心に、引き続き縄文土器の製作・研究をすることを目的に1997年に結成。

◇活動人数

- ・ 18名（2004年）

◇活動内容

- ・ 縄文土器についての材料、製法、技術等の研究および復元製作。
- ・ 体験講座「縄文土器をつくろう」の指導・協力。

◇活動日

- ・ 毎月第1土曜日（定例日）。
- ・ その他講座開催日など。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 体験学習室を貸し出し。
- ・ 講座協力者謝礼として、37,500円を計上。

◇運営（シフト 等）

- ・ 会長、書記、担当、会計などを選任。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 定例会を開催。
- ・ 会報を発行。
- ・ その他、各研究団体などと交流。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 上記館講座修了者より募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 定例日に、随時実施。
- ・ 研修旅行、年1回程度。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 講座については、協力者謝礼を会に支給。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ やや高齢化しつつある。

◇その他

- ・ 本館以外の団体のイベントにも協力している。
- ・ 講座協力のほか、自主的な研究活動を行っている。

活動個別シート ③講座への協力（古代織研究会）

◇活動開始年

- ・ 講座「縄文の布をつくろう」卒業生を中心に、引き続き古代の織物を研究することを目的に、1996年に結成。

◇活動人数

- ・ 27名（ 年）

◇活動内容

- ・ 古代の染織の材料、製法、技術等の研究、および復元製作。
- ・ 体験講座「縄文の布をつくろう」、「編布のコースターをつくろう」における技術指導・講座運営協力。

◇活動日

- ・ 第1、第3水曜日（定例日）。
- ・ その他講座開催日など。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 体験学習室を貸し出し。
- ・ 講座協力者謝礼として、60,000円を計上。

◇運営（シフト 等）

- ・ 代表、担当、会計などを選任。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 定例会を開催。
- ・ 会報を発行。
- ・ その他、各研究団体などと交流。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 上記館講座修了者より募集。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 定例日に随時実施。
- ・ 年1回、研修旅行を実施。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 各講座については、協力者謝礼を会に支給。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 活動内容的に、男子の参加は少ない。

◇その他

- ・ 自主的な研究活動も行っている。
- ・ 小学校における体験学習・総合学習、市観光物産展にも協力している。

.....

館園名 : 玉里村立史料館

1. 施設の概要

開館年月日（西暦）

・1994年07月26日

所在地

・〒311-3433 茨城県新治郡玉里村高崎 291-3

公式サイト

・<http://>

設立主体

・玉里村

運営主体

・玉里村教育委員会

設立目的

・村内の歴史を展示して紹介。

展示概要

・旧石器～近代までの通史展示。

活動概要

- ・①特別展 年1回。 ④民家園関係諸活動。
- ・②参考展示 年1回。
- ・③他ミニ展示 適宜開催。

延床面積

・約250㎡（展示室）

全職員数（常勤職員）

・1名（2004年12月現在）

年間運営費

・13,768,552円（2003年度）

総資料点数

・約10,000点（2004年12月現在）

施設その他

・展示室、民家園、收藏庫等。

2. ボランティア活動 名称：玉里の史跡と自然を守る会

活動目的・経緯

- ・古墳草刈、玉里六井整備、古代米づくり等。

活動人数（総数、男女比、年齢構成）

- ・ 49名（2004年12月現在）
- ・ 男性：34名、女性：15名
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳

ボランティア担当職員（2004年12月現在）

- ・ 部局名称：玉里村史料館
- ・ 担当人数：常勤職員1名・その他（ ）名

活動の種類（種類別にご記入願います）

- ・古墳草刈、玉里六井整備、古代米づくり等。
- ・
- ・
- ・

活動その他（活動全体に関わる特記事項など）

- ・

関連する出版物

- ・なし

関連するHP

- ・ <http://www.geocities.jp/tamarivoll/>

館外組織（NPO等）との連携（館内ボランティア以外での連携など）

- ・特になし。

.....

館園名 : 地図と測量の科学館

1. 施設の概要

開館年月日（西暦）

・ 1996年06月01日

所在地

・ 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

公式サイト

・ <http://www.gsi.go.jp/MUSEUM/index.html>

設立主体

・ 国土地理院

運営主体

・ 国土地理院（「地図と測量の科学館」管理運営補助及び企画業務補助に関わる契約請負者あり）

設立目的

・ 地図や測量技術の歴史と発展を知っていただくため、我が国で初めての地図と測量に関する総合的な展示施設として設立。

展示概要

・ 地図や測量に関する原理や仕組み、新しい技術、いろいろな地図、私たちの生活との関わり、時代とともに発展してきたその歴史などを解説するほか、国土地理院が保有している基準点成果、空中写真、いろいろな地図等についての情報を提供する施設。

活動概要

・ 地図や測量に親しんでいただくよう研究者・愛好者の会や地域住民の交流の場としての機能を備え、多くの方々に利用され愛される施設としてハード・ソフト両面の一層の充実を図っていく。

延床面積

・ 4,630 m²

全職員数（常勤職員）

・ 9名（2004年12月現在）

年間運営費

・ 円（2003年度）

総資料点数

・ 点（ 年 月現在）

施設その他

・ 展示館、地球ひろば。

2. ボランティア活動 名称：科学館を利用した普及・啓発業務補助に関わるボランティアの活用

活動目的・経緯

- ・ 科学館の見学者の地理・地図の学習の支援と普及・啓発を図るため、2004 年度から導入。

活動人数（総数、男女比、年齢構成）

- ・ 3 名（2004 年 12 月現在）
- ・ 男性：3 名、女性： 名
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳

ボランティア担当職員（ 年 月現在）

- ・ 部局名称：契約請負者による。
- ・ 担当人数：常勤職員 名・その他（ ） 名

活動の種類（種類別にご記入願います）

- ・ 見学者からの地理・地図の関する相談等の対応を行うと共に、館内の展示物等の説明を担当。
- ・
- ・
- ・

活動その他（活動全体に関わる特記事項など）

・

関連する出版物

・

関連するHP

- ・ <http://>

館外組織（NPO等）との連携（館内ボランティア以外での連携など）

・

活動個別シート 活動名：①科学館を利用した普及・啓発業務に関わるボランティアの活用

◇活動開始年（西暦）

- ・2004年

◇活動人数

- ・3名（2004年12月現在）

◇活動内容

- ・見学者からの地理・地図に関する相談の対応を行うと共に、館内の展示物等の説明を担当。

◇活動日

- ・毎週日曜日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

・

◇運営（シフト 等）

- ・登録者の中から1日2名体制。

◇交流（情報、組織 等）

・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・地図作成、測量技術、測量制度等、地図・測量に係る職務経験及び知識を有する者。

◇研修（種類、内容、講師 等）

・

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・交通費支給、ボランティア活動保険加入。

◇評価

- ・専門的な説明に対し、見学者からも好感が持たれている。

◇課題と展望

- ・登録者が少ないため、負担が大きい。登録者を広く募る。

◇その他

・

.....

館園名 : 土浦市立博物館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1988年07月02日

所在地

- ・ 〒300-0043 茨城県土浦市中央1-15-18

公式サイト

・

設立主体

- ・ 土浦市

運営主体

- ・ 土浦市

設立目的

- ・ 地域の伝統と文化遺産を大切に保護し、後世に伝え、活用するため、郷土資料館が老朽化したこともあり、建設。

展示概要

- ・ 市内の古文書・典籍類、霞ヶ浦漁業関係資料をはじめとする民俗資料、坤輿万国全図・傘式地球儀などの歴史資料を収蔵。
- ・ 常設展示は、土浦の古代から近代までの通史展示。

活動概要

- ・ 特別展・企画展、歴史講座、講演会を開催。
- ・ 紀要・展示図録を出版。

延床面積

- ・ 2,483 m²

全職員数

- ・ 7名（学芸員5名、管理運営2名）

年間運営費

- ・ 63,306千円（人件費含まず）

総資料点数

- ・ 約29,000点

その他

・

2. ボランティア活動 名称：土浦市文化財愛護の会

活動目的・経緯

- ・ 土浦市域における文化財について、その研究、保護、および活用につとめ、進んで市民の文化財愛護精神と郷土愛を深めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 420名（2004年）
- ・ 男性： 名、女性： 名（ 年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳（ 年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局： 担当人数：常勤 名・その他（ ） 名

活動の種類

- ・ ①館行事への参加協力。

活動その他

- ・ 土浦市文化財愛護の会（事務局は、土浦市考古資料館に設置。業務については、資料館の社会教育指導員が担当。）は、市内文化財の清掃、パトロール・防火デー事業への協力、こども郷土研究への協力を行っている（市立博物館、市立考古資料館は、必要に応じて、情報提供を頂いている。館内のボランティア組織ではない）。

関連する出版物

- ・ 「土浦のむかし話」（第1集～4集）、「土浦の方言」、「土浦の文化財写真絵はがき」他。

関連するHP

- ・

館外組織（NPO等）との連携

- ・

活動個別シート ①館行事への参加協力

◇活動開始年

- ・ 1977 年

◇活動人数

- ・ 名 (年) ※人数は不定

◇活動内容

- ・ 文化財愛護の会写真部会「文化財写真展」(毎年実施)
- ・ 文化財愛護の会、博物館共催「沼尻墨遷」(1997 年、第 21 回企画展)

◇活動日

- ・ 写真展開催期間中。
- ・ 他は、随時必要に応じてご協力頂く。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 館内に、文化財愛護の会の備品を保管。
- ・ 各種打ち合わせ、研究会では会場を提供。

◇運営(シフト 等)

- ・

◇交流(情報、組織 等)

- ・ 「文化財つちうら」(毎年刊行)にて、文化財情報や展覧会情報を掲載。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 会員になるための特別な資格や任期はない。
- ・ 人数制限もとくに設けられていない。
- ・ 会費、年額 2,000 円

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ 博物館内の見学は、入館料免除。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・

◇その他

- ・

館園名 : 常陸大宮市歴史民俗資料館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1989年04月01日

所在地

- ・ 〒319-2265 茨城県常陸大宮市中富町1087-14

公式サイト

- ・ <http://city.hitachiomiya.lg.jp/>

設立主体

- ・ 常陸大宮市

運営主体

- ・ 常陸大宮市

設立目的

- ・

展示概要

- ・ 考古と歴史：町内出土の石器や土器、中世の城館遺跡構図、近世文書等。
- ・ 民俗：江戸～昭和中期までの民具、民俗行事の紹介。

活動概要

- ・ 特別展示、古文書講座、土器作り教室を行う。
- ・ 報告書・図録を出版。

延床面積

- ・ 311.28 m²

全職員数

- ・ 9人

年間運営費

- ・

総資料点数

- ・

その他

- ・ 旧大宮町小祝から、2003年12月に町内中富（町役場隣接地）に移転。2004年10月に那珂郡山方町・美和村・緒川村、東茨城郡御前山村と合併し、常陸大宮市となった。この合併により、旧大宮町歴史民俗資料館は、「常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館」に、旧山方町歴史民俗資料館は「常陸大宮市歴史民俗資料館山方館」になり、2003年まで開館していた小祝の資料館は「常陸大宮市歴史民俗資料館小祝分館」（収蔵庫扱い）となった。

2. ボランティア活動 名称：

活動目的・経緯

- ・ 当資料館は江戸時代後期から市内西塩子地区に伝わる組立式歌舞伎舞台「西塩子の回り舞台」について、その調査時から関わってきた。平成9年、約半世紀ぶりに組み立てが行なわれ、その後、平成14年の第2回公演を経て、18年には第3回の公演を予定している。180年を経た舞台道具は傷みが激しく、特に今回、最古の道具である大幕を新調する予定である。また、舞台の組み立てを伝承していくため、地域の方々を始め、遠方からも有志を募り、組み立てに参加してもらう。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 7名（ 年）
- ・ 男性： 名、女性：7名（ 年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 50歳（ 年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局： 担当人数：常勤 1名・その他（ ） 名

活動の種類

- ・ ①舞台道具の製作および歌舞伎舞台の組み立て、②舞台幕の製作（紡ぎと織り）

※舞台の組み立てについては、組み立て時にボランティアを募集して活動する。

活動その他

・

関連する出版物

・

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

- ・ 西塩子の回り舞台保存会

活動個別シート ①舞台道具の製作および歌舞伎舞台の組み立て
(県指定有形民俗文化財・西塩子の回り舞台)

◇活動開始年

- ・ 2003 年

◇活動人数

- ・ のべ 130 名 (3 ヶ月)。

◇活動内容

- ・ 舞台道具の製作 (襖絵等)。
- ・ 組立式歌舞伎舞台の組み立て。

◇活動日

- ・ 活動期間：2006 年秋公演まで。
- ・ 組み立ては公演の約 1 ヶ月前から、舞台道具製作は約 3 ヶ月前から開始する。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 舞台道具製作の指導者について、文化庁からの補助金あり。

◇運営 (シフト 等)

- ・

◇交流 (情報、組織 等)

- ・

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 募集：新聞・インターネット・チラシによる。
- ・ 資格：年齢を問わず、継続して組み立て作業に参加できる方。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ 組み立ての初日に、西塩子の回り舞台についての歴史と構造についての説明会を行う。

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・ 組み立て参加者：保険加入 (費用は保存会が負担)。
- ・ 交通費・昼食は自弁。

◇評価

- ・ 公演の日にボランティアさんに舞台に上がってもらい、紹介する。

◇課題と展望

- ・ 町内からの参加者が少なかった。継続性から考えて、市内を含む周辺地域からの参加者を増やしていきたい。

◇その他

- ・ これらの活動により、西塩子の回り舞台の歌舞伎公演が平成 15 年度ふるさとイベント大賞を受賞した。

活動個別シート ②舞台幕の製作（県指定有形民俗文化財・西塩子の回り舞台）

◇活動開始年

- ・ 2002年

◇活動人数

- ・ 7名（2004年）

◇活動内容

- ・ 舞台幕の製作（綿の栽培から織りまで）。
- ・ 舞台幕染色の製作管理と製作過程の映像記録の作成。

◇活動日

- ・ 活動期間：2006年秋公演まで。
- ・ 週に1日程度。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 講師謝金のみ（財）グリーンふるさと振興機構から補助を受け、残りは会費。

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 月に1度打ち合わせを行う。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 口コミによる。
- ・ 継続して活動するもの。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 月に1度講師を招いて技術指導を仰ぐ。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 全て自弁。
- ・ 使用する道具等は資料館の収蔵品を使用している。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 製作終了後の活動が課題。

◇その他

- ・ 当地方の伝統的な織りの技術を伝承する会として活動してきたが、大幕を織るという大きな目標を立てて活動したために、織りの技術がたいへん向上した。今後の後継者育成に期待できるであろう。

.....

館園名 : 真壁町歴史民俗資料館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1978年07月01日

所在地

- ・ 〒300-4408 茨城県真壁郡真壁町真壁 57-1

公式サイト

・

設立主体

・

運営主体

・

設立目的

・

展示概要

- ・ 考古約2,000点、歴史約100点、民俗約20,000点の資料を収蔵。
- ・ 真壁氏に関する古文書は、中世地方武士の動向を知る上で貴重。国史跡真壁城跡の整備事業で出土した戦国期の遺物資料も収蔵。
- ・ 常設展示は設けていない。

活動概要

- ・ 年3回、企画展を開催。
- ・ 古文書解説講座、郷土史講座、発掘体験講座、町史編纂事業。
- ・ 展示図録・町史料集・郷土資料を出版。

延床面積

- ・ 304㎡

全職員数

・

年間運営費

・

総資料点数

・

その他

・

2. ボランティア活動 名称：真壁町並み案内ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 2001年9月頃、活動開始。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 15名（2005年）
- ・ 男性： 名、女性： 名（ 年）
- ・ 平均年齢 歳：男性 歳、女性 歳（ 年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局： 担当人数：常勤 名・その他（ ） 名

活動の種類

- ・ ①街並み散策者へのガイド。

活動その他

・

関連する出版物

・

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

・

活動個別シート 活動名：①街並み散策者へのガイド

◇活動開始年（西暦）

- ・ 年

◇活動人数

- ・ 名（ 年 月現在）

◇活動内容

- ・ 登録文化財の建物（現在104棟）が建ち並ぶ真壁の町並みを、1～1時間30分位の時間をかけて案内ボランティアが案内する。

◇活動日

- ・ 来町する町並み見学者の希望日に活動。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・

◇運営（シフト 等）

- ・ 案内依頼があった時点で、事務局が各会員に連絡し、都合を確認して依頼する。
- ・ 4月頃、総会を開催。

◇交流（情報、組織 等）

- ・

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 発足当時は広報で募集した。最近友達等を紹介してくれ、2、3名の会員増となった。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 年2回位、先進地視察（佐原市、6月川越市予定）を実施。
- ・ 資料館の学芸員による学習会（年2回）を実施。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 1日500円を、弁当代として支給。今年度9万円計上。資料館、文化財係で事務局をもつ。

◇評価

- ・ 通常の案内は良くやってくれている。見学者が多い場合ボランティアだけで対応できない。

◇課題と展望

- ・ 案内するのに60才代のボランティアが必要。町として必要経費の負担不足がある。
- ・ 登録文化財を見学する目的か、観光の目的による見学か、その区別が難しい。
- ・ 町の商工課と資料館の文化財係の双方で対応しており、今後1本化の方向で進めたい。
- ・ ボランティア事務所の設置と、人的問題としてボランティア独自の事務局を育成していくことが必要。

◇その他

- ・ 本年10月1日に、3町村で町村合併の予定なので、10月以降の分については、未定。

.....

館園名 : 水戸芸術館現代美術センター

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1990年03月21日

所在地

- ・ 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

公式サイト

- ・ <http://www.arttowermito.or.jp/>

設立主体

- ・ 水戸市

運営主体

- ・ 水戸市芸術振興財団

設立目的

- ・ 水戸芸術館は、水戸市制100周年を記念する高さ100メートルのシンボルタワー、ACM劇場、コンサートホールATM、現代美術ギャラリーからなり、美術・演劇・音楽といった芸術の各分野が、お互いにクロスオーバーしあう総合文化施設である。

展示概要（現代美術センター）

- ・ 小清水漸、クリスト、クリスチャン・ボルタンスキー、ジェームス・タレル、イリヤ・カバコフらの作品を収蔵。
- ・ 常設展示はない。

活動概要（現代美術センター）

- ・ 世界的に評価の高い現代美術作家、中堅・若手作家の展覧会を積極的に企画。
- ・ ワークショップ活動、講演会、こどもメディアプロジェクト、パフォーマンスなどを開催。

延床面積（三部門総面積）

- ・ 22,432.1㎡

全職員数

- ・ 役員1名 事務局16名 学芸14名 嘱託4名 舞台技術6名
ATMフェイス（臨時職員）52名 学芸臨時職員 8名

年間運営費

- ・ 三部門事業費合計 567,008（単位千円／平成17年度）
*管理費除く
*ホームページに掲載あり。

総資料点数

- ・ 所管作品63点（直接は水戸市の財産なので水戸市芸術振興財団は管理者である）

2. ボランティア活動 名称：現代美術センターボランティア

活動目的・経緯

- ・ 1992年4月、美術教育ボランティア発足。17名で活動開始。
- ・ 1998年4月、「現代美術センターボランティア」と改称。
- ・ 2000年春、これまでの活動をいったん整理するため、旧メンバーは卒業し、従来から図書の整理に携わっていた司書ボランティアの方々を含め、現代美術センターの活動をサポートする方々全体を「現代美術センターボランティア」と称する。
- ・ 2001年 旧「現代美術センターボランティア」のうち、ギャラリートークに専念するメンバーが、「CACギャラリートーカー」として活動を再開。4期生12名が加わり23名となる。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 約200名（2004年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：現代美術センター
- ・ 担当人数：常勤2名（嘱託1名・臨時職員1名）

活動の種類

- ・ ①CACギャラリートーカー、②司書ボランティア、③広報ボランティア、④メーリングリストの管理人、⑤ボランティア通信編集グループ ⑥ギャラリーライター ⑦プロジェクトボランティア。
- *2005年度は②～④は活動を休止しています。

活動その他

- ・ 館により運営。
- ・ 予算管理は担当職員。予算は年間約130万円（ボランティア運営全般と子育て支援企画などのワークショップ予算も含む）。
- ・ 現代美術は社会の価値観が反映されるので、定例会では毎回美術をめぐる、あるいは美術を離れて、率直な議論が繰り返されている。
- ・ メンバーどうし、展示室で語り合ったり、他人の視点を取り入れたり、自主的にアーティストのトークショーを企画したり、と自己研鑽にはげんでいる。
- ・ 一般に難解とされる現代美術を、地域の方々に紹介し、理解を求めていく上で、市民と芸術館をつなぐボランティアの存在は欠かせない。
- ・ ボランティアを中心として、さまざまな市民が関わりやすい入り口を設け、その声を運営に取り入れることで、本来現代の多様な生活、価値観を反映した視点を持つ現代美術を紹介する美術館の存在意義と社会とのつながりを探っていきたい。

関連する出版物

- ・ 1994年1月、担当学芸員の発案で、ボランティア通信紙『168（いろは）』を刊行。素材集め、編集、デザイナーとの打合せなど、メンバー自身が制作を担当し、メンバーが、日頃、見聞きすること、考えていることを、パブリックに向けて発信している（1999年3月の第10号をもって休刊中）。2004年新たに有志3名によりボランティア通信「R&D」を発行。展覧会ごとに編集されている。
- ・ 1997年誌上シンポジウム「美術館とボランティア」刊行。ボランティア活動が盛んな全国4

館の担当者の座談会やボランティアメンバーの声を集録。

- ・ 活動全体を俯瞰する冊子『ボランティアの本 2004』を刊行。地域における文化施設と市民の関係がどのように変化してきたのか、現在どのような活動をしているのかを報告。地域資源としての芸術館の新たな可能性を、広く一般に知らせることを目指した。

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

- ・ ボランティアが直接連携するというわけではないが、館としては街づくりや子育ての NPO や青年会議所、商工会議所等地元の団体と一緒に展覧会を作る機会が増えている。

活動個別シート ①CACギャラリートーク

◇活動開始年

- ・ 1992年

◇活動人数

- ・ 21名(2005年)

◇活動内容

- ・ 企画展開催中の土・日曜日、14:30～。
- ・ 観客と対話式で作品を鑑賞するウィークエンドギャラリートークを開催、2～3名で担当。
- ・ ウィークデイも学校などの団体に対し不定期でギャラリートークを実施。また学校への出前トークの経験もあり。

◇活動日

- ・ 土日が中心。

◇補助(予算、備品、ボランティア室等)

- ・ 15名ほどの会議ができるボランティア室がある。

◇運営(シフト等)

- ・ 持ち回りで担当するリーダーがメールリストを通じて担当日の調整をする。
- ・ 担当職員からもこのメールリストを通じて、勉強会等の事務連絡をする。
- ・ 数名のPCを使わないメンバーにはリーダーが電話・ファックス等で連絡。

◇交流(情報、組織等)

- ・ 内部的には年1回、全てのボランティアグループを招待するパーティー「芸夜(ゲイナイト)」を学芸スタッフが主催。展覧会にあわせて「中国」「動物」などのドレスコードを設定した参加者同士がコミュニケーションするきっかけも用意。またこのパーティーではパフォーマンスなどの特別プログラムを用意するとともに、次年度の展覧会情報を各担当学芸員が嗜好をこらして提供、日頃のサポートに対する感謝をつたえるとともに今後の参加モチベーションを作る場として機能している。
- ・ 外部研修で他の美術館やアートフェアに出向きボランティア同士の交流を持つ機会がある。また他の美術館や公共団体からも来館しての交流会の希望が入ることも。
- ・ 展覧会のオープニングパーティーは誰でも参加することができるので、他のボランティアや作家との交流の場となっている。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期等)

- ・ 不定期。欠員が多く運営が難しくなった場合に実施、選考あり。
- ・ 約半年～1年の研修期間を終えてからギャラリートークを担当。過去に4回募集。
- ・ 定年制なし。1年ごとに更新をする。

◇研修(種類、内容、講師等)

- ・ 選考前の研修では「現代美術センターの活動」「美術と社会を結ぶ」「現代美術の現場から」「ギャラリートークの実際」等をセンターの学芸員が分担して担当。また、館全体の活動についても概略を事務局職員などが説明。
- ・ 通常の企画展については、事前勉強会を担当学芸員から1回。作品が完成した展覧会オープン前日に1回の説明を受ける。トークの自主中間勉強会を期間中1回開催し、お互いの情報交換の場としている。また、その他に年に1～2回の外部研修(2004年度は金沢21世紀

美術館、東京国立近代美術館で実施)、外部講師を招いての研修を実施。またボランティア自身が企画または講師となる勉強会も不定期開催。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ ボランティア保険に加入。
- ・ 展覧会 1 会期に謝礼として 5000 円を支払っている。交通費・食費の支給なし。
- ・ トーク準備に必要な展覧会カタログ、有料企画への招待等あり。
- ・ 本人は身分証でギャラリーへの出入りが自由。他に招待券の支給あり。

◇評価

- ・ 参加者からはおおむね好評の声。参加者が説明を求めるタイプの場合、建築展など参加者のほうが情報を持っている場合がある展覧会の時には聞き役になるスタイルについて参加者によっては評価が分かれるかもしれない。来館者が多くの選択肢から選べるように、2005 年度からは必ず担当学芸員によるガイドツアーも並行開催する予定。
- ・ ギャラリーの年間パス「おとなのパス」所持層からモニターを募集して参加者の声をフィードバックしてもらう予定。
- ・ 2003 年 10 月につなぐ NPO「観客の学校」の評価ツアー（エヴァリュエーション・ツアー）を受け入れた。

◇課題と展望

- ・ 全国的に美術館の入場者数が減る中、トークの参加者も減少傾向がある。忙しい中毎回新しい課題について熱心に取り組むトーカーのやりがいやはりトークを通じて来館者に現代美術の楽しさを伝えることにあるので、館側としては観客層の掘り起こしを図る予定。
- ・ 片方で運営が安定してそれほど辞めるメンバーがないので、新しい風を入れるための時期募集の時期が難しい。さまざまな要素のバランスシートをとっていくことが運営そのもの。

◇その他

- ・

活動個別シート ②司書ボランティア

◇活動開始年

- ・ 1998年

◇活動人数

- ・ 12名(2004年)

◇活動内容

- ・ 毎日全国から送られてくるカタログや書籍等の分類、入力、整理。水戸芸術館には開架の図書室はないので、これらは主に学芸員やボランティアが活用する資料となる。
- ・ 曜日ごとに分かれて、司書資格を持つメンバーの仕分けの終わった資料についてデータ入力、ラベリングを施し、書棚に入れていく。

◇活動日

- ・ 木・土・日曜日。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 必要がある時にボランティアの予算から消耗品等を購入する。

◇運営(シフト 等)

- ・ 担当学芸スタッフ(総務的な役割を果たしている臨時職員)が運営を担当していた。

◇交流(情報、組織 等)

- ・ トーカーの勉強会、交流パーティーなどに参加。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 館内広報とDMで募集し、特に選考はなし。
- ・ 約10名。
- ・ 2004年度で一度解散。

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・ 司書資格を持つメンバーと担当スタッフによる。

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ ボランティア保険に加入。
- ・ 駐車場の提供以外は特になし。司書資格を持ち、公共交通機関を利用するメンバーには交通費を支給していた(リタイアされているので持ち出しが多すぎるため)。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 2005年に活動を停止したのは、増え続ける資料の保存場所など物理的な課題に直面した為。一部を市に寄贈するなど今後の方向性を決めてからまた必要に応じて再開。

◇その他

- ・

活動個別シート ③広報ボランティア

◇活動開始年

- ・ 2002年

◇活動人数

- ・ 10名(2004年)

◇活動内容

- ・ 展覧会ポスター、チラシ等の近隣商店街当への配布。
- ・ 広報担当者が年間パス利用者へのダイレクトメールに同封するスタッフ通信の制作に参加。
(2003年 こもれば展)

◇活動日

- ・ 展覧会前に設定した日程数日で活動。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 特になし。

◇運営(シフト 等)

- ・ 広報担当スタッフが担当。連絡やシフトの作成などを担う。

◇交流(情報、組織 等)

- ・

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 多くのプロジェクトボランティアチームを募集する「カフェイン水戸」展(2002, 2004)の際に公募。

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・ 特になし。

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ ボランティア保険に加入。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ ポスター等を設置してくれる商店がだいたい固定化してきたので、最近では広報担当者が直接おきに行くことも多い。市民が伝えていくことの利点も大きいので、余裕があるときにはまた募集をし、新規開拓への協力がのぞまれる。

◇その他

- ・

活動個別シート ④メーリングリストの管理人

◇活動開始年

- ・ 1995年

◇活動人数

- ・ 2名(2004年)

◇活動内容

- ・ 水戸芸術館ホームページの中にあるメーリングリスト「現代美術ファン倶楽部」の管理、活性化。スパムメールの処理など。

◇活動日

- ・ 毎日。

◇補助(予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ 特になし。

◇運営(シフト 等)

- ・ メーリングリストが館全体のホームページ内にあるので、事務局のホームページ担当者が責任を持つ。コンテンツについては美術部門の学芸員も検討会議に参加。

◇交流(情報、組織 等)

- ・ 初期にはオフミも数回開催。
- ・ 館に来ないでもボランティアができるのだが、交流パーティーやトーカーの外部研修等には参加してもらってきた。

◇募集(広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ 学芸スタッフからの推薦。

◇研修(種類、内容、講師 等)

- ・ もともとコンピュータについての知識を持った人をお願いするので特にはなし。

◇待遇(交通費、食費、保険 等)

- ・ 保険に加入。カタログなどの提供。

◇評価

- ・ 特になし。

◇課題と展望

- ・ 2005年春の個人情報保護法案施行により過去ログ等を実名で公開してきたメーリングリストの今後の運営を検討するために、会員に告知の上一度停止している。

◇その他

- ・

活動個別シート ⑤ボランティア通信 R&D 編集グループ

◇活動開始年

- ・ 2004年

◇活動人数

- ・ 4名 (2005年)

◇活動内容

- ・ ボランティア通信 R&D の編集、発行。

◇活動日

- ・ メンバーの都合でその都度設定。

◇補助 (予算、備品、ボランティア室 等)

- ・ ボランティアの全体予算から。
- ・ 編集会議はボランティア室を使用。

◇運営 (シフト 等)

- ・ 教育プログラム担当者が運営。

◇交流 (情報、組織 等)

- ・

◇募集 (広報、選考、時期、人数、任期 等)

- ・ ギャラリートーカー有志2名と託児企画の参加者だったメンバー3名で発足。2005年からギャラリーライターメンバー1名が加わり4名に。
- ・ 公募はしていない。

◇研修 (種類、内容、講師 等)

- ・ ギャラリートーカーの勉強会当に参加。

◇待遇 (交通費、食費、保険 等)

- ・ ボランティア保険に加入。
- ・ カタログ等の支給。

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ メンバーは編集のプロではないので、何気ない発想を実現するための教育プログラム担当者の仕事量が多い (展覧会担当学芸員との間の調整、レイアウト支援)。

◇その他

- ・

活動個別シート ⑥ギャラリーライター

◇活動開始年

- ・ 2003年

◇活動人数

- ・ 8名（2004年）

◇活動内容

- ・ 担当学芸員が必要とした展覧会で、鑑賞者の声としてライターが書いたシートを設置。
- ・ いわばギャラリートークの紙版。どのように見たらいいかわからない作品を目の前にして不安を感じたときにさまざまなメンバーの自由な感じ方を参考にしてもらおうというもの。

◇活動日

- ・ 年に1展覧会程度の活動。特に集まってるの会合はなし。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

・

◇運営（シフト 等）

- ・ ギャラリーライターのメーリングリストを現代美術センターが管理。執筆した原稿などの提出に役立っている。活動がないときもメーリングリストを通じて日頃の雑感などの意見交換をしている。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 交流パーティーに参加。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ ギャラリートーカー他のボランティアの中からの希望者。またアンケートに毎回熱心に答えてくれている来館者、数名にも声をかけて参加してもらっている。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ トーカーの勉強会への参加。カタログの配布。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ ボランティア保険に加入。

◇評価

- ・ ライターの文章を見て心を動かされた来館者が、その作者に興味を持ち、学校の課題でメンバーの短編ドキュメントを取ったことがある。
- ・ 来館者のアンケートでは親しみが持てたという声が多い。

◇課題と展望

- ・ 美術館の刊行物は展覧会に来慣れている人に向けて書かれていることが多い。専門的な視点をめる人には学芸員によるカタログがあるが、慣れていない人にとっては難解なことが多々ある。そうした部分をカバーするための試みだが、必要がない人にとってはノイズにもなり得るので設置や内容に関しては注意が必要。

◇その他

・

活動個別シート ⑦プロジェクトボランティア

◇活動開始年

- ・ 開館当初から必要に応じて同じようなボランティアを募ってきたが、「プロジェクトボランティア」の名称をつけたのは2000年から。

◇活動人数

- ・ 名（年）

◇活動内容

- ・ 必要に応じて、展示作業やワークショップに関わる。
- ・ 最近では「カフェ・イン・水戸2004」展で10種類のボランティアチームを募集。毎年開催する高校生ウィークでは30名程度の高校生、大学生が参加。

◇活動日

- ・ 内容により。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 多くはその企画（展覧会等）の予算によって運営される。

◇運営（シフト 等）

- ・ 学芸員と教育プログラム担当者と一緒に担当する場合もあるが、その企画によって形態が異なる。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 交流パーティーに招待。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 展覧会チラシ、市報などで。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 内容により。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 内容により。単発なので保険は募集をかけてから加入。

◇評価

- ・ 特になし。

◇課題と展望

- ・ その企画や担う役割によって集まる層が違う。いずれにしても多くの市民に内側から水戸芸術館の運営を理解してもらい貴重な機会なので、広く告知をしたい。

◇その他

- ・

.....

館園名 : ミュージアムパーク茨城県自然博物館

1. 施設の概要

開館年月日

- ・ 1994年11月13日

所在地

- ・ 〒306-0622 茨城県岩井市大崎700

公式サイト

- ・ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp>

設立主体

- ・ 茨城県

運営主体

- ・ 茨城県

設立目的

- ・ 野鳥の飛来地として有名な菅生沼周辺の豊かな自然を生かし、本館・野外を通して、楽しみながら自然への理解を深める参加体験型博物館。

展示概要

- ・ 本館：自然界の歴史やしくみ、人間との関わりを実物標本やジオラマ、映像などでわかりやすく展示、解説。
- ・ 野外：自然観察のコース、自然発見遊具などが設置されている。

活動概要

- ・ 観察会などの行事、映画会、移動博物館、収蔵資料の貸し出しを実施。

延床面積

- ・ 11,995 m²

全職員数

・

年間運営費

・

総資料点数

・

その他

・

2. ボランティア活動 名称：茨城県自然博物館ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 1994年11月、活動開始。
- ・ 1995年度、チーム制がスタート。
- ・ 2003年度、友の会チーム、研修チーム、イベントチーム、DP・展示解説チーム、図書チーム、化石クリーニングチーム、植物チーム、ホテルチーム、野鳥チーム、発見工房チーム、ネイチャーゲームチーム、昆虫チーム、きのこチーム、岩石チームの、14のチームの体制で活動するようになる。

活動人数（男女比、年齢構成）

- ・ 103名（2004年）
- ・ 男性：45名、女性：58名（2004年）
- ・ 平均年齢51歳：男性52歳、女性48歳（2004年）

ボランティア担当職員

- ・ 部局：教育課 担当人数：常勤1名・その他（ ） 名

活動の種類

- ・ ①館内の展示解説補助、②入場者の整理、③各種行事の際の指導補助、④野外活動、⑤調査研究、⑥資料整理、⑦館内の維持管理補助、⑧友の会活動の補助、⑨ボランティアの自主的活動。

活動その他

- ・ チームごとに、特定の曜日に活動。
- ・ 300万円の予算を計上。
- ・ ボランティア室あり。
- ・ ボランティア組織により運営。
- ・ 各人、希望のチームを2つ以上選択して活動。
- ・ 壁新聞、機関誌「ボランティアフォーラム」、MLにて交流。
- ・ 小冊子を発行（隔月）。
- ・ 打合せ会（年2～3回）を開催。
- ・ 定期的に一般公募する。
- ・ 定年制なし。2年ごとに更新する。
- ・ 新人研修、更新研修を実施。
- ・ ボランティアが、自主研修会を毎月開催。
- ・ ボランティア保険に加入している。
- ・ 活動補助費（報償費）あり。
- ・ 自主的に精力的に活動している反面、活動が拡散する傾向にある。
- ・ 活発な方と消極的な方とに二極化している。
- ・ 登録のみで、活動の少ないボランティアが存在する。
- ・ メンバーが高齢化している。

関連する出版物

・

関連するHP

・

館外組織（NPO等）との連携

・

活動個別シート

◇活動開始年

- ・ 1994 年

◇活動人数

- ・ 103名（2004年）※全体の人数

◇活動内容

- ・ 常設展示およびディスカバリープレイス・カウンターの展示解説ならびに展示資料の整理。

◇活動日

- ・ 個人・グループによって様々。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ 300万の予算
- ・ ボランティア室あり

◇運営（シフト 等）

- ・

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 壁新聞、機関誌「ボランティアフォーラム」、ML

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 広報（通年）

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 新人研修、更新研修、自主研修。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 保険加入（予算）
- ・ 活動補助費（報償費）

◇評価

- ・

◇課題と展望

- ・ 高年齢化。

◇その他

- ・

.....

館園名 : 龍ヶ崎市歴史民俗資料館

1. 施設の概要

開館年月日（西暦）

- ・ 1990年04月01日

所在地

- ・ 〒301-0004 茨城県龍ヶ崎市馴馬町 2488

公式サイト

- ・ <http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp> (市の HP で照会)

設立主体

- ・ 龍ヶ崎市

運営主体

- ・ 財団法人龍ヶ崎市文化振興事業団

設立目的

- ・ 市民の財産として、多くの文化遺産を後世に伝え、市の歴史的発展を明らかにし、郷土づくりに対する認識と理解を深めることをめざし設立された。

展示概要

- ・ 「龍ヶ崎の歴史と民俗」をテーマに、エントランスホールにて八坂神社祇園祭礼で行われる関東三大奇祭と称される撞舞を4分1の模型にて展示し、視聴覚資料「龍ヶ崎の水と暮らし」などを展示上映。
- ・ 常設展示室は、原始古代から近現代までの歴史と民俗を展示。
- ・ その他、納屋・よろず屋を再現した屋外展示もある。

活動概要

1. 展示事業

- ・ 企画展 約年2回開催

2. 教育普及事業。

- ・ 講演会、講座（郷土史講演会、古文書講座、歴史散歩、れきみんシアター）。
- ・ 体験学習（わら草履、親子竹細工、しめ飾り、お手玉、機織り、草木染め、篆刻、六角凧、針穴写真）。
- ・ 文化活動の推進及び助成（資料調査指導、資料照会、ボランティア育成、学芸員実習の受入れ）

3. 資料収集整理保存。

延床面積

- ・ 1,421.77 m²

全職員数（常勤職員）

- ・ 3名（2005年01月現在）

年間運営費

- ・ 44,293,000円（2003年度）

総資料点数

- ・ 約30,000点（2005年01月現在）

施設その他

- ・ 指定管理者制度の導入に向け、事業計画の見直しを行っている。

2. ボランティア活動 名称：資料館ボランティア

活動目的・経緯

- ・ 目的
市民や来館者がより身近な学習の場として、楽しみ親しむことができるよう施設や関連事業のサポートを行い、個々の知識や経験を発揮し生涯学習活動を展開する。
- ・ 経緯
平成 14・15 年度で行った体験学習「藍の生葉染め教室」(4 月～9 月まで) の参加者から関連事業をサポートしたいとの要望で平成 16 年 4 月より活動を開始しました。

活動人数(総数、男女比、年齢構成)

- ・ 16 名(2005 年 01 月現在)
- ・ 男性：0 名、女性：16 名
- ・ 平均年齢 56 歳：男性 歳、女性 56 歳

ボランティア担当職員(2005 年 01 月現在)

- ・ 部局名称：管理係
- ・ 担当人数：常勤職員 3 名・その他() 名

活動の種類(種類別にご記入願います)

- ・ ①体験学習教室の指導補助。
- ・ ②体験学習教室用資材の栽培、収穫(わた、藍、藁)
- ・ ③機織り作業の技術習得。

活動その他(活動全体に関わる特記事項など)

- ・ 館主導で運営。
- ・ 毎月 1 回打合せ会を行っている。

関連する出版物

・

関連するHP

- ・ <http://>

館外組織(NPO等)との連携(館内ボランティア以外での連携など)

・

活動個別シート ①体験学習教室の指導補助

◇活動開始年(西暦)

- ・ 2004 年

◇活動人数

- ・ 15名（2005年01月現在）

◇活動内容

- ・ わら草履教室、親子竹細工教室、しめ飾り教室、お手玉教室、機織り教室、草木染め教室、藍の生葉染め教室などの講師の補助および道具の準備・片付けなどを行う。

◇活動日

- ・ わら草履教室 7～8月 4回
- ・ しめ飾り教室 12月 3回
- ・ 親子竹細工教室 8月 2回
- ・ お手玉教室 3月 1回
- ・ 機織り教室 3月 10回
- ・ 草木染め教室 6月・10月 各2回

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ ボランティア活動費として特には計上していない。

◇運営（シフト 等）

- ・ 1回の教室に関して3～5人の担当をお願いしており、毎月の打合せ会の時に当番を決めるようにしている。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 毎月打合せ会を実施し、代表が連絡ノートを記入している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 体験学習（特に藍の生葉染め教室）参加者を対象に募集している。
- ・ 資格は、市内在住・在勤の方。
- ・ 定年制なし。1年ごと更新を行う。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 事前研修（講師による養成講座）年3回。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 鑑賞会や展覧会の観覧料割引など。
- ・ 事前研修での材料費は無料。
- ・ 館外講座への優先受講。

◇評価

- ・ まだ、発足して間もないので個々の評価は考えていない。

◇課題と展望

- ・ 自主的な参加で予定を組んできたが、メンバーが固定化してきているため全員が均等に参加するようローテーションを組む。
- ・ 今後は、自主的に活動ができる分野を取り入れたい。（作品展など）
- ・ 屋外展示の施設を利用して、子供たちが気軽に昔の道具や遊びなどができるようボランティアの方々と楽しみながら新しい事業を考えていきたい。

◇その他

- ・ ボランティアの方々の熱意が来館者に少しずつ伝わり、入館者数が伸びてきた。

活動個別シート ②体験学習教室用資材の栽培、収穫（わた、藍、じゅず、藁）

◇活動開始年（西暦）

- ・ 2004年

◇活動人数

- ・ 15名（2005年01月現在）

◇活動内容

- ・ わら草履教室、しめ飾り教室、機織り教室、草木染め教室、藍の生葉染め教室用の資材の栽培と収穫。

◇活動日

- | | | |
|------------|------------------------|-----|
| ・ わら草履教室 | 9月に藁を収穫 | 1回 |
| ・ しめ飾り教室 | 8月に藁を青刈り | 1回 |
| ・ 機織り教室 | 10月にわたを収穫 | 1回 |
| ・ 草木染教室 | 春～秋にかけて染色で使用できる染料を確保する | 5回 |
| ・ 藍の生葉染め教室 | 4月～8月まで栽培 | 20回 |

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ ボランティア活動費として特には計上していない。

◇運営（シフト 等）

- ・ 3グループに分かれて活動している。

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 毎月打合せ会を実施し今後の予定および担当を決め、その都度代表が連絡ノートを記入。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 体験学習（特に藍の生葉染め教室）参加者を対象に募集している。
- ・ 資格は、市内在住・在勤の方。
- ・ 定年制なし。1年ごと更新を行う。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 職員が指導する。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 鑑賞会や展覧会の観覧料割引など。
- ・ 館外講座への優先受講。

◇評価

- ・ まだ、発足して間もないので個々の評価は考えていない。

◇課題と展望

- ・ 屋外での作業がほとんどで、体力を使うので今後は男性の参加も検討中。
- ・ 材料の確保は天候に大きく左右されるので、長期的な計画が必要。

◇その他

- ・ 職員の不足、そして猛暑のため一時はどうなることとっていたのですが、ボランティアの方々のお陰で、今年度も良質の材料が確保できました。屋外での大変な作業でしたが、この作業をとおしてボランティアの方々と職員の交流がより一層深まり、また来年度への新しい展望が計れるような気がしました。

活動個別シート ③機織り作業の技術習得

◇活動開始年（西暦）

- ・ 2004年

◇活動人数

- ・ 15名（2005年01月現在）。

◇活動内容

- ・ 機織りの作業工程を習得し、体験学習「機織り教室」の講師を行う。

◇活動日

- ・ 毎週火曜日と木曜日。

◇補助（予算、備品、ボランティア室 等）

- ・ ボランティア活動費として特には計上していないが、機織り作業に行う糸の染色用の燃料および薬品等を無料としている。

◇運営（シフト 等）

- ・ 3グループに分かれて活動している。（機織り機が5台しかないため）

◇交流（情報、組織 等）

- ・ 毎月打合せ会を実施し今後の予定および担当を決めて活動している。

◇募集（広報、選考、時期、人数、任期 等）

- ・ 体験学習（特に藍の生葉染め教室）参加者を対象に募集している。
- ・ 資格は、市内在住・在勤の方。
- ・ 定年制なし。1年ごと更新を行う。

◇研修（種類、内容、講師 等）

- ・ 職員が指導する。

◇待遇（交通費、食費、保険 等）

- ・ 鑑賞会や展覧会の観覧料割引など。
- ・ 館外講座への優先受講。

◇評価

- ・ まだ、発足して間もないので個々の評価は考えていない。

◇課題と展望

- ・ 機織り機の台数が現状より増やせないことと、施設の確保が難しい。
- ・ 今後「龍ヶ崎もめん」の復元を目標に展開していきたい。

◇その他

- ・ ボランティア活動の一番の原動力となっているのがこの活動です。問題点も多々ありますが、今後の活動として「龍ヶ崎もめん」の復元を考えており、この活動をとおしてメンバー同士が達成感を共有しグループとしてより一層まとまり、また資料館を特徴つける活動へと発展していければと思います。